

令和元年度 福岡県地域福祉活動職員連絡会 事業報告

(1) 総括

令和元年度は、我々が日常的に行っている事業を振り返り、社協職員として、コミュニティワーカー・コミュニティソーシャルワーカーとしての視点を今一度認識し広げていくことを目的に、研修・会議等を開催いたしました。

今、社会福祉協議会が担う事業は、行政からの受託という形であろうが、地域や住民にとって必要なことであり、与えられたメニューやミッションをこなすだけであれば、社協じゃなくてもできることとなってしまいます。私たち社協職員は、地域福祉という視点にこだわりを持ち、事業のその先にあるものを組織として見据え、地域や住民とともに試行錯誤しながらコミュニティワークを進めていく必要があります。それは、今、社協が担っている事業すべてに言えることであり、その視点を各市町村社協で共有することが住民の幸せにつながるのではないかと思います。令和元年度は、そういった気付きについて経験豊富な先輩方にご教授いただきました。

関東における台風及び水害や年度末の新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画していた事業が遅延・延期することとなり、市町村社協職員の皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。但し、災害は近年毎年どこかで発生しますし、今直面している新型コロナウイルス感染症という新たな課題は、避けては通れないことであり、今後社協の在り方を考え直さなければならない可能性があります。社協が得意とする「つながり」を武器に、この緊急事態を乗り越える必要があると感じています。

(2) 具体的な事業内容

【研修事業】

「先輩ワーカーから学ぶ研修会」(令和元年度地職連総会後の研修) -----

講師のこれまでの社協活動のお話をもとに参加者それぞれが「社協活動とは？」について考える時間となりました。

「どのセクションにいても社協職員は全員がコミュニティワーカー」ということや、目の前の事象に「なぜ？」と疑問を持ち続けることの大切さ、物事を多角的に見る視点など、これからの社協活動に向け、参加者一人一人が改めて考えるとともに、他市町村社協職員とつながることや業務内外を通して議論できる環境の重要性を感じる研修会となりました。

▼日 時／令和元年5月31日(金) 15時30分～17時

▼会 場／JR博多シティ 9階 会議室

▼参加者／62名

▼内 容／「個と地域をつなぐ生活困窮者支援・権利擁護

コミュニティソーシャルワークを实践する社協(私たち)に求められる眼(まなこ)

▼講 師／寝屋川市社会福祉協議会 生活支援課 課長 高橋 俊行 さん

「新任職員研修

～相手に対する配慮とは～災害時から日常へ、社協職員にもとめられるもの～」-----

茨城県のつくばみらい市にある高雲寺の住職である米沢さんを招いて「相手に対する配慮とは～災害時から日常へ、社協職員にもとめられるもの～」というテーマで講演していただきました。

私たちワーカーは日々業務を行う中で発生する個人や地域の課題に対し、解決に向けて取り組むのは当然ですが、その前に地域の方々と信頼関係を築く必要があります。しかし、一言で信頼関係を築くのは容易ではなく、業務上の対応だけでは信頼関係は築けません。また、近年頻発する災害被災地での支援においては短期間で信頼関係を築くのは難しく、日頃から顔の見える関係をつくり、日々地域福祉活動の実践を積み重ねていくことがもとめられます。

住民が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためにはどのような配慮が必要なのか、ワークを通じて考える研修になったと思います。

- ▼日 時／令和2年2月12日（水）13時30分～17時
- ▼会 場／JR博多シティ 10階 大会議室 AB
- ▼対象者／社協職員（入職5年以内程度の職員）
- ▼参加者／21名
- ▼講 師／全日本仏教青年会 顧問 米沢 智秀さん

「社協が〇〇をする意味～社協の主体性について問う研修会～」-----

少子高齢化等の福祉課題の深刻化に併せ、地域包括ケアシステムや地域共生社会など、福祉課題を地域住民の力で解決し、住みやすい地域づくりを『住民主体』で構築していくという視点が強くなってきている近年において、住民主体を謳っている我々社協の「主体性」とは一体どういうものかを改めて問うために、本研修会を開催しました。

本研修会は2日間開催し、1日目は法律改正や時代の変遷に流されるまま、「〇〇をするのが社協」という概念を客体的に捉え、「社協が〇〇をする」という意味や本質を改めて振り返るために、数多くの実践を重ねておられ、現在もその意味や本質を捉えた役割を全うしておられる他県職員3名を講師として招き、「社協が〇〇をする」という意味を考えました。

2日目は、社協職員自身の主体性を考えるために、1日目の講師と地職連会長を務めてこられた福岡県内社協職員3名を加えた6名で「社協職員の主体性」について、参加者とともに熱い議論を交わしました。

2日間を通して、社協職員の主体性を自問自答するとともに、熱き叱咤激励を受け、自分たちの地域福祉推進及び社協の存在意義を改めて振り返った場となりました。

- ▼日 時／①令和元年9月13日（金） 13時30分～17時30分
②令和元年9月14日（土） 10時～13時
- ▼会 場／リファレンス駅東ビル Y-1会議室 他
- ▼参加者／両日延70名（①：35名、②：35名）

▼内容・講師／

①分科会「社協が〇〇をする意味とは」

分科会 1：社協が『総合相談』をする意味

大津市社会福祉協議会 事務局次長 山口 浩次さん

分科会 2：社協が『在宅福祉』を推進する意味

東近江市社会福祉協議会 在宅福祉課長 眞弓 洋一さん

分科会 3：社協が『コミュニティワーク』を推進する意味

ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志さん

②パネルディスカッション

「滋賀の強者と元地職連会長の融合～このままでええんか、社協！主体性を出さないかんのは誰だ!?～」

滋賀の強者：山口浩次さん（大津市社協）、眞弓洋一さん（東近江市社協）、
井岡仁志さん（ローカリズム・ラボ）

元地職連会長：能塚治一郎さん（小郡市社協）、國武竜一さん（うきは市社協）、
宿利幸央さん（志免町社協）

司会者：現地職連会長 池松 昌亀（大刀洗町社協）

「“ともに”考え 地域福祉を“協働”する研修会」-----

コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、次年度へ延期。

▼日 時／令和 2 年 2 月 25 日（火）

▼会 場／JR 博多シティ 9 階

▼対象者／社協職員・生協職員

▼講 師／桃山学院大学 教授 小野 達也さん

うきは市社会福祉協議会 在宅福祉課 課長補佐 國武 竜一さん

【会議の開催】

■福岡県地職連令和元年度全体会議の開催-----

「専門員連絡会」という名称で各市区町村社協の専門員が集まり、各専門員が抱える課題や地域の課題について情報交換する「会議」を行ってきたその原点に立ち返り、業務の中で行き詰まっていることに関する考え方の整理や新たな視点などを同じ立場のワーカーから吸収し、考え方を固め、各社協職員が思いを語り合うことを目的として開催しました。

当日は、事前に参加者より募ったテーマの中から、協議するテーマを決定し、全員で語り合う方法で行いました。

日々の役割・業務の中で悩んでいることや聞きたいこと、自分の思い等を同じ立場のワーカー同士で議論し合い、新たな視点の発見や自分自身の考えの整理等を行いました。

▼日 時／令和元年 6 月 28 日（金） 13 時 30 分～17 時

▼会 場／クローバープラザ 502 研修室

▼参加者／22 名（18 社協）

▼内 容／以下のテーマに沿って、ホワイトボードを活用し、全員で議論

- ・引きこもり支援について～本人に困り感はないが、家族や近所の方は心配している～
- ・小地域における見守りネットワーク～福祉委員制度等見守りの仕組みや協力者との関係～
- ・自立支援型地域ケア会議～個別ケースから見えてくる地域課題とは～
- ・多機関との連携～行政や企業との連携や社協の情報発信～
- ・伝わりやすい言葉・対応～窓口・相談対応で心掛けていること～
- ・コミュニティワークの方向性～地域ビジョンの考え方～

■委員会・課題別会議・研修の開催および自主研修支援-----

○「中堅社協職員研修委員会」の発足

地職連役員会からの要請により、中堅社協職員向けの研修企画及び実施を、旧地職連役員を中心に組織化。企画会議を重ね、令和元年度には研修会を開催しています。

第 1 回 6 月 17 日（月）

場 所：志免町総合福祉施設シーメイト 出席者：5 名

内 容：令和元年度の取り組み等について

第 2 回 9 月 17 日（火）

場 所：志免町総合福祉施設シーメイト 出席者：6 名（内 1 名実習生）

内 容：令和元年度の取り組み及び今年度の研修内容等について

第 3 回 1 月 23 日（火）

場 所：志免町総合福祉施設シーメイト 出席者：5 名

内 容：令和 2 年度の取り組み等について

○中堅社協職員研修委員会「経済環境の変化が社会福祉に及ぼす影響について考える研修会」

「セルフネグレクト」「制度の狭間」「ダブルケア」「8050 問題」など、私たちが関わる地域には複雑な課題が山積しています。一方、平成 30 年 4 月に施行された改正社会福祉法において、「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念や自治体が包括的な支援体制づくりに努める旨が記載され、各地で多様な実践が展開されるなど、まさに国を挙げて地域福祉を推進しているような状況があります。しかし、本来の地域福祉のあり方は、住民主体という言葉にもあるようにボトムアップ型であるはずですし、財政難を理由にトップダウンで地域福祉が進められるということへの違和感を覚えている社協職員も多くいるのではと思われます。

そういった状況を受け、今回は経済環境や各自治体の財政について知り、それらの状況が福祉にどのように影響するのか、改めて学ぶため、本研修会を開催しました。

研修会を通して、目の前の福祉課題と向き合っていくには財源の確保はもちろんのこと、現在それぞれの自治体の財政状況がどういった状況にあり、今後どうなっていく見通しであるかについても把握をし、活動を進めていく必要があると感じました。

▼日 時／令和元年 11 月 7 日（木） 14 時～17 時

▼会 場／クローバープラザ セミナールーム A

▼参加者／12 名

▼講 師／佐賀大学経済学部 教授 平部 康子 さん

【広報事業】

■会報「まなこ」の発行-----

【発行月と内容】

No.86（令和元年 10 月）

○研修事業報告

①先輩ワーカーから学ぶ研修会「個と地域をつなぐ生活困窮者支援・権利擁護コミュニティソーシャルワークを実践する社協（私たち）に求められる眼（まなこ）」

②福岡県地域福祉活動職員連絡会令和元年度全体会議

③新幹事紹介

④「社協ワーカーです」のコーナーです

先輩ワーカーからのメッセージコーナー「伝えられることがあるだろうか」

西南学院大学大学院人間科学専攻科人間科学研究博士前期課程在学中 木山淳一さん

⑤社協が〇〇をやる意味（社協的眼）

「社協は積極的に生活困窮者支援へ乗り出す必要はないのか！」

うきは市社会福祉協議会 地域福祉課 相談支援係

地域福祉活動コーディネーター 権藤俊介さん

⑥編集後記

No.87（令和 2 年 3 月）

○研修事業報告

①中堅社協職員研修委員会主催事業

「経済環境の変化が社会福祉に及ぼす影響について考える研修会」

②「相手に対する配慮とは～災害から日常へ、社協職員に求められるもの～」(新任職員研修)

③ホームページのリニューアルについて

■ホームページ・Facebook の運営-----

Facebook 等を通じ、研修等の情報提供等を行いました。

また、yahoo ジオシティーズのサービス終了に伴い、永らくホームページが閲覧できない状態となっていました。この度リニューアルして再開することとなりました。今後はホームページでも研修等の案内、まなこなどの情報発信を行っていきます。

■全国社協職員のつどい参加促進-----

新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、開催延期。

■福岡県社協との連携-----

広域社協である県社協との連携を深め、意見・情報交換の場を設け、課題を見据えながら必要に応じ研修会の共同企画などを行っていきます。

■役員会の開催-----

- 第1回役員会（4/26） 場所：ホフスネット会議室博多駅前店 出席者：10名
内容：H31 総会について、事業報告分担、事業計画について
- 第2回役員会（5/31） 場所：JR 博多シティ 9階 会議室(3) 出席者：7名
内容：R1 総会について、R1 主催研修について、
委員会の設置について
- 第3回役員会（6/28） 場所：クローバープラザ 502 研修室 出席者：7名
内容：主催研修について、全体会議について、まなこ校正について
- 第4回役員会（9/5） 場所：リファレンス駅東ビル 会議室 B 出席者：6名
内容：主催研修について、全体会議について、まなこ校正について
- 第5回役員会（10/25） 場所：ベイズ福岡 B13 会議室 出席者：6名
内容：主催研修について、ホームページの開設について
- 第6回役員会（1/16） 場所：ベイズ福岡 B13 会議室 出席者：7名
内容：主催研修について、まなこの発行について
- 第7回役員会（2/12） 場所：JR 博多シティ 出席者：5名
内容：主催研修について、次年度事業について
- 第8回役員会（3/17） 場所：ひょうたん島 出席者：7名
内容：次年度事業について
- R1 年度監査（4/7） 場所：朝倉市社協 出席者：5名